

01 目的と方法

近年、全国的に都市施策の目標が、経済的成長指向から、福祉・生活環境優先施策に変化し、一層その傾向が明確になってきている。都市景観に関する種々の行政施策もその一つである。しかし、環境への意識が高まるなかで景観に対する住民の意識やニーズが整備計画につけられる根拠は存在していない。

本研究は、主に住宅地の街区・地区レベルのストリートスケープ及び、街区・地区環境への意識と都市区

地区空間構成要素特性、居住者属性とから捉え、街区・地区の景観整備計画への示唆を得ようとしたものである。本論では、札幌市内の住宅地を対象とし、住民へのアンケート調査と街区・地区空間を構成する物的要素の集態の観察調査に基づき検討を行った。対象地区は、①形成時期②住戸形態③開発主体④市街地での位置に基づき、11ヶ所の地区を選定した。アンケートは、各地区の中心をクロスする街路沿いの住戸を対象にレタランダムサンプリングを行った。(図1表1)

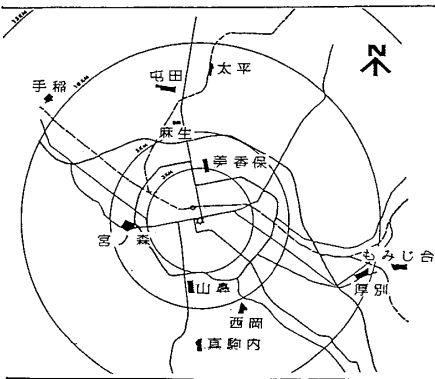
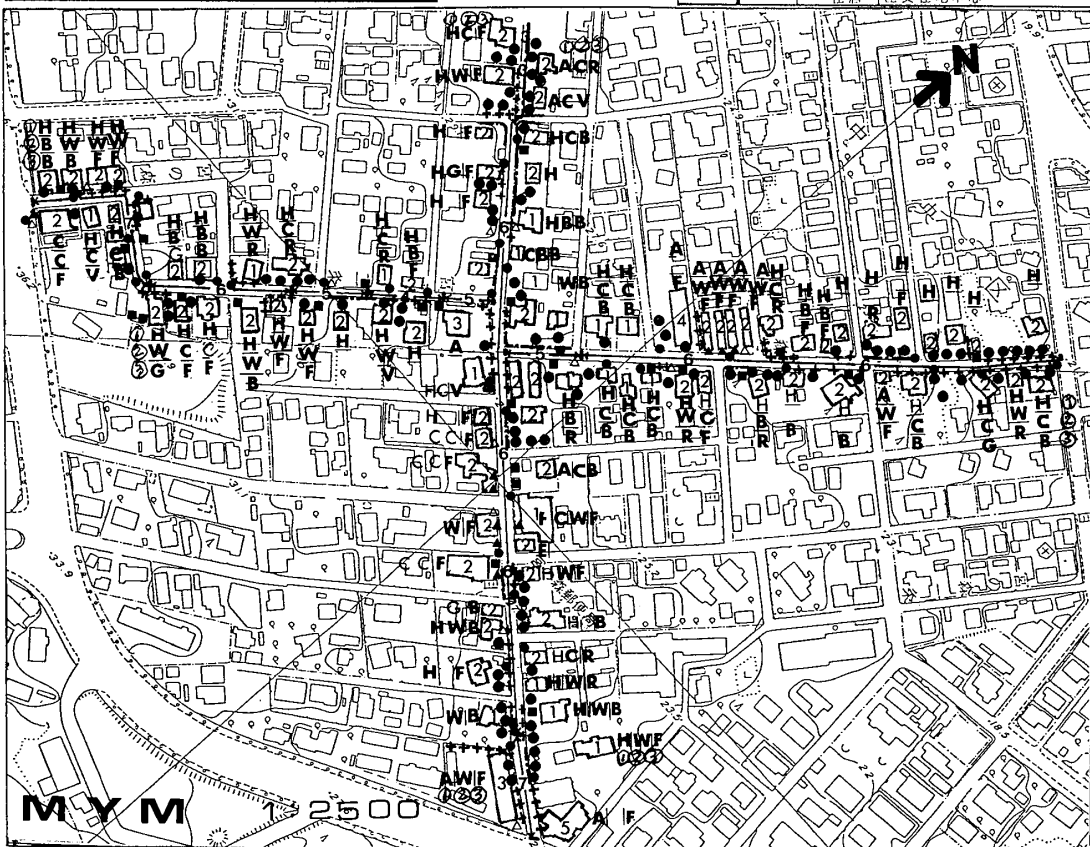


FIG.1 調査対象地区

- 対象地区 (回収/配布)
 手稲保 MKH (25/30)
 もみじ台 MMJ (26/30)
 厚別 ATB (29/30)
 宮ノ森 MYM (28/30)
 手稲 TIN (30/30)
 山鼻 YNH (28/30)
 真駒内 MKM (29/30)
 西岡 NSO (30/30)
 麻生 AZB (30/30)
 屯田 TND (29/30)
 太平 TTH (26/30)
 塚数 (310/330)
 8.2, 1.1, 2.0 配布
 回収による後日回収

表1 地区の特性と住民の属性

地区	D10編入年次	用途地域	地区を構成する住宅と他の用途	平均敷地面積 (坪)	平均居住年数 (年)	平均年齢 (歳)
美善保	S35	第2種住居	戸建住宅住宅中心、アパート類・自営業も点在	85.3	18.8	50.1
もみじ台	S50	第1種住居	公社団地・公社の分譲住宅	82.2	9.0	47.6
厚別	S45	第2種住居	公営住宅・公営団地	76.8	12.4	47.2
宮ノ森	S40	第2種住居	戸建住宅住宅中心	129.0	12.4	44.7
手稲	S55	第1種住居	民間地分譲住宅	66.1	3.9	42.1
山鼻	S35	第2種住居	戸建住宅住宅中心、アパート類多く、自営業も混在	91.7	13.4	45.3
真駒内	S40	第1種・第2種住居	公営住宅・公営団地中心、戸建住宅住宅混在	110.5	8.0	45.2
西岡	S55	第2種住居	民間地分譲住宅	65.6	6.6	41.5
麻生	S40	第1種・第2種住居	公社分譲住宅中心、一部に市営住宅	70.5	16.4	56.2
屯田	S50	第1種・第2種住居	公社分譲住宅中心、部分的に自営業混在	89.4	11.7	47.3
太平	S55	第1種住居	民間土地分譲による住宅住宅中心	56.9	2.9	40.1



F.2 街路景観構成要素の現況地図 (宮ノ森)

凡例

1. 道路幅員(m)
 6 → 10

電柱 ●
 広告看板 大 ▲ 小 △
 生垣 ————
 塀 ————
 ガレージ物置 ■
 庭の樹木高木 ●
 建物階数 □

① 戸建 H
 マンション A
 住宅 M
 商業 S
 ② 外壁の色 W
 白 C
 茶 B
 青緑 G
 ③ 屋根の色 R
 赤 V
 青 G
 緑 F
 白 F

- **路上駐車**——道路幅と強い相関があり、狭いほど多くなる傾向がある。狭いほど歩道の幅は、業者保の道路幅は、1.5m、歩道の歩道幅は、2m程度のものが多くある。
- **ゴミ置場**——歩行に支障があるため、歩道幅と強い相関がある。地区によって、ゴミ置場の数（公衆・衛生）が異なる。ゴミ置場の多さは、ゴミ置場の数と歩道の幅の相関が強い。ゴミ置場の多い地区は、歩道の幅が狭い傾向がある。また、ゴミ置場の多さは、歩道の幅と歩道の長さの相関が強い。歩道の幅が狭いほど、歩道の長さが長い傾向がある。
- **道路幅**——幅が狭いほど、（山・業者保）が狭いほど、歩道の幅が狭くなる傾向がある。歩道の幅が狭いほど、路上駐車が多くなる。道路幅と歩道の幅の相関が強い。歩道の幅が狭いほど、路上駐車の数が多くなる。道路幅と歩道の幅の相関が強い。歩道の幅が狭いほど、路上駐車の数が多くなる。
- **道路表面**——舗装の粗いほど、（山・業者保、厚み）が粗いほど、歩道の幅が狭くなる傾向がある。
- **歩道幅**——歩道の幅が狭いほど、歩道の長さが増える傾向がある。歩道の幅が狭いほど、歩道の長さが長い傾向がある。歩道の幅が狭いほど、歩道の長さが長い傾向がある。
- **電柱**——歩道幅と強い相関がある。歩行に支障がある場合、（山・業者保）が狭いほど、歩道の幅が狭くなる傾向がある。
- **待機線**——電柱の位置と歩道の幅の相関が強い。歩道の幅が狭いほど、待機線の数が多くなる傾向がある。歩道の幅が狭いほど、待機線の数が多くなる傾向がある。

近所の景観の評価と街路景観の評価の相関 (表3)

宮ノ森と毛田と比較——西地区は、前面道路に対して評価しているが、近所の景観がよい評価では、宮ノ森に比べて評価が低い。しかし、毛田では「不整・雑草が多い」と評価しており、毛田の建物・敷地の画一性が低く、宮ノ森の建物・敷地の画一性が①に高い傾向にある。

西地区と手稲と比較——所地区は、民営住宅供給業者が建設した地区であるが、手稲は①評価が、より目立つ。これは、敷地圧縮、道路、歩道幅、地形の傾斜など、初期計画の基盤整備内容の違いによる。

毛田と麻生の比較——所地区は、公営住宅供給業者が多い地区であるが、この年代に相関があり、毛田の延長上麻生があるという見方もできる。麻生では、

増改築・建て替えの進行、アポート等の侵入も進行しており、時勢経過による統一性の喪失と、評価の低下の傾向が顕著である。

03 物理要素の意識と近所・街路景観の評価

各評価と相関の強い物理要素の意識は、同じ次元のようである。判断である。(表4)

- **外壁の色** → 外壁の色 → 統一性 → 歩道 → 自動車の量
- **屋根の色** → 屋根の色 → 統一性 → 歩道 → 自動車の量
- **道路表面** → 道路表面 → 歩道表面素材 → 道路幅
- **歩道幅** → 歩道幅 → 歩道表面 → 歩道表面素材 → 道路幅
- **歩道の長さ** → 歩道の長さ → 歩道表面 → 歩道表面素材 → 道路幅
- **歩道の幅** → 歩道の幅 → 歩道表面 → 歩道表面素材 → 道路幅
- **歩道の長さ** → 歩道の長さ → 歩道表面 → 歩道表面素材 → 道路幅
- **歩道の幅** → 歩道の幅 → 歩道表面 → 歩道表面素材 → 道路幅

子供の安全性 → 自動車の安全性 → 自動車の量 → 歩道幅
歩道幅 → 道路幅 → 歩道幅
統一性の強い物理要素 → 歩道の領域からの影響が大きい。

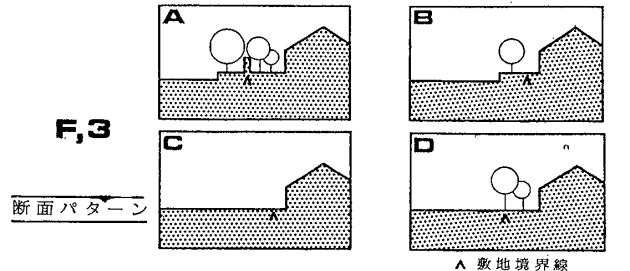
公共性の強い物理要素 → 歩道の領域からの影響が大きい。
歩道の領域からの影響が大きい。
歩道の領域からの影響が大きい。

自動車の量 → 自動車の量 → 自動車の量 → 自動車の量
歩道の領域からの影響が大きい。
歩道の領域からの影響が大きい。

歩道の領域からの影響が大きい。
歩道の領域からの影響が大きい。
歩道の領域からの影響が大きい。

T,4 物理要素の意識と前面道路の評価の相関図

前面道路の評価	景観構成要素の意識					CHI SQUARE	
	外壁の色 の統一性	屋根の色 の統一性	歩道の 長さ	歩道の 幅	歩道の 素材	路上駐車	歩道の 長さ
にぎやか さみしい	31.97	42.80	23.20	32.88	33.89	5.56	
整った状態	22.87	51.81	13.39	30.19	13.70	13.83	14.18
きれいな ゴミ	22.76	35.69	10.53	19.78	11.03	14.70	26.02
のびのび きゅうくつ	26.71	35.32	15.31	26.58			
子供に安全 子供に危険	69.14	36.90	8.56	22.40			
	62.34	118.01	17.99	16.63	26.00	17.66	19.00



04 景観評価に关する社会的要素

- i) 近所付き合いの頻度・意識・必要性は、各地区とも④に近い。現状の頻度・意識・必要という評価順位が確認された。必要に対する評価は、各地区ともやや必要以上(評価尺度+1以上)であり、もみじ台・真駒内ではかなり高い(+1.5以上)評価である。以上の二地区は、現状より以上の近所付き合いを各地区とも期待でき、整備計画における住民の参加の点で有意な住民意識を確認できた。(図4)
- ii) 近所付き合いの意識と近所付き合いの距離(親レジャー・好きレジャー・義務感)の両方、各地区とも、高い相関があり、近所付き合いの距離と距離の親近感あるいは総合的評価の相関が確認された。景観の評価が近所付き合いの状態と関連する点も確認された。(表5)
- iii) 近所付き合いの頻度・内容・意識・必要性は、各地区とも④に近い評価であり、古い地区ほど評価が高い。特にT7近所付き合いは、厚別・真駒内・もみじ台で特に高く、北田・西田・手稲で低く評価される。(図4)

05 総合考察

結論として、何をどう評価し、景観の印象にどう影響しているかを整理して来た。その中から以下のよう重要な整備計画のための示唆が得られた。

- 1) 老朽化する外壁とそれを年を経るにつれて緑が隠す状態になっているか否かで、情緒を感じさせるか決別する。また、最近の住宅地においては、敷地近隣のさいため、敷地の中心に位置する家と庭の場所がほぼ固定され、長方形の街区を東西方向または南北方向に配置するにすぎず、道路幅から決定される緑・外壁の状態が大きく異なり、そのほかに上記の状態に打ちかかるとも決別している。(図5)
- 2) 居住年数によらず、景観評価は刻々と変化する。これは、物的な変化と意識的な変化によるものである。
- 3) 自分の家「田舎」に決別して、満足度が非常に低く、その機能もマイバシー保護の役割はほとんど打たないが、田舎の統一性は、道路の統一性の印象に強く決別しているため重要な整備ポイントとなる。
- 4) 地区を構成する物的要素は一般化しているが、公的拠点・礼の領域の「存在意識」は、地区によってその存在状態が異なり、特別の要素が強く

意識されている場合がある。

- 5) 道路の幅、坂、建築の不規則・規則性は④の物的要素と打たるが、緑量・整備状態、居住環境や層性との関連により、④の物的要素とも打たる。
 - 6) 近所付き合いは、ほとんど存在しており、特に、必要とする度合いは経年が高まっており、近隣の協力や整備を行って行くための準備があるとしてよい。
- 今回の研究により、住民の住宅における景観把握の特別な視点を持っており、その内容は、属性による物的要素の意識の違い、近所付き合いの意識・近所付き合いへの影響、居住環境への欲求から生じる物的要素の意識の違い、等々であることと示された。
- すなわち、住宅において景観をとりこみ、整備計画を考へようとする場合、住民がその物的要素の管理であるかや、物的な構成要素、時間の経過による物的要素の老化、蓄積、その中でいかに打たる社会的関係及び、整理という3つの軸で景観を捉えて行くことが、のぞましいこととなる。

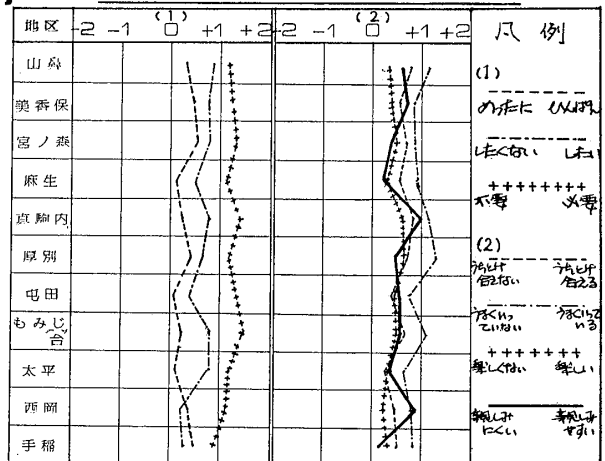
T,5

近所のたたずまいの評価と近所づきあいの評価の相関表

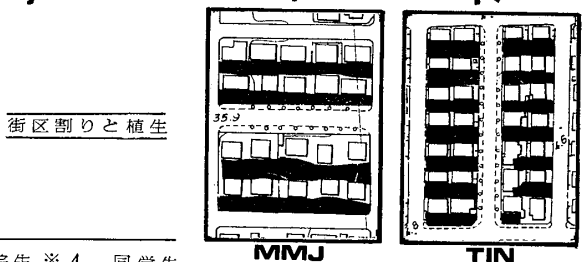
近所づきあいの印象	近所のたたずまいの評価 CHI SQUARE					
	美しい 寂しくなり	美しい 寂しくなり	必要 不要	数ばん めったに	うまくい かない	うまくい かない
満足 不満足	225.13	226.95	270.55	169.18	201.25	314.87
好き 嫌い	213.11	216.53	281.90	190.35	185.08	323.65
親しみやすい 親しみにくい	185.64	197.17	204.01	177.79	258.78	224.21

F,4

近所づきあいの評価と近所の景観の評価



F,5



※ 1 北海道大学教授・工博 ※ 2 同助手 ※ 3 同大学院生 ※ 4 同学生